

2017年3月5日 主日礼拝説教(要旨)

聖書 ルカによる福音書 19章 1～10節

説教「ザアカイの救い」

ザアカイの救いの出来事は一読して忘れられない印象的な話です。ザアカイの行動は何ともユーモラスです。わずか10節で完結する短い話ですが、ここには主イエス・キリストの救いとは何か、救いにあずかるとはどういうことかといった大切なことが語られています。それでこの箇所は、「放蕩息子のたとえ」と並んで伝道礼拝などで取り上げられる代表的なテキストにもなってきました。

ザアカイの話は前後関係から切り離されて読まれることが多いのですが、ルカによる福音書の流れの中でどういう位置におかれているかに注目したいと思います。この福音書は主イエスの地上の生涯をエルサレムへと旅するイエスという構図のもとにまとめています。9章51節から始まった主イエス一行のエルサレムを目指す旅はもうゴールに近づき、その手前の町エリコに入ってきています。19章28節から主イエスはエルサレムの都に入っていけます。すると、ザアカイの話は主イエスの地上の旅の最後に語られる出来事だということが分かります。

9章から19章の間にある折々の出来事と主イエスの教えは、神の国とはどういうところか、神の国にふさわしいのは誰か、誰が神の国に招かれるのかというテーマに貫かれています。神の国のたとえがいくつもありました。18章では、主イエスは弟子たちに「子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない」(18:17)と言われ、また「財産のある者が神の国に入るのは、なんと難しいことか」(18:24)と語られたのでした。それに対して、私たちは「それでは、だれが救われるのだろうか」と問わずにおれないのですが、これら神の国シリーズを総括するザアカイの話は、人はただ神の先立つ選びと導きによって確かに救われるのだということを語り、「人間にはできないことも、神にはできる」(18:27)という主イエスの言葉を力強く証しているのです。

ザアカイが徴税人の頭で金持ちであったということは、二重の意味で救われ難い人間であったことを意味していました。まず徴税人とは、当時この地方を支配していたローマ帝国の手先となって同胞から税金を搾り取る仕事をしていました。手荒な仕方でお金を集め、規定以上に取り立てた分で私腹を肥やしていたのです。それゆえ、人々からは嫌われ、裏切り者のレッテルが貼られていました。福音書の中でしばしば、罪人、遊女、徴税人と並べられていることから、徴税人がどんな風に見られていたかが分かります。今日の箇所でも、ザアカイの家に入っていた主イエスを見て、町の人たちは皆「あの人は罪深い男のところに行って宿をとった」とつぶやいたのでした。徴税人は神から遠く離れた、失われた人でした。しかし、主イエスはそのような徴税人とも交わ

りを持たれ、彼らの空しい心の呻きと叫びを聞きとめられました。

エリコは商業の盛んな町でしたから、徴税人の頭ザアカイの稼ぎは相当のものであったと想像できます。彼は金持ちでした。しかし、主イエスはあの真面目な金持ちの議員と出会われた際にも、「財産のある者が神の国に入るのは、なんと難しいことか。金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい」(18:25)と言われました。その意味でも彼は救われ難い人でした。しかし、そんなザアカイを主イエスはご自身の救いに招かれたのでした。

ザアカイと主イエスとの出会いは、ただ一方的に主イエスの方から来ました。沿道のいちじく桑によじ登り、上から主イエスを見降ろしていたザアカイに、ちょうどその下を通りかかられた主イエスは立ち止まり、「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい」と言われたのです。「泊まりたい」とは「泊まらねばならない」という表現です。主イエス側の断固たる必然性があります。ザアカイの主イエスを見たいという小さな願いとは比較にならないほどの決意と熱心さで、主イエスはザアカイを捜し求めておられたのです。迷子になった一匹の羊を尋ね求める羊飼いのように、無くした一枚の銀貨を必死に捜し求める女のように、あるいは落ちぶれて帰って来た息子を見つけて走り寄る父親のように、主イエスは「失われた者を捜して救うために」来られたのです。

ザアカイは主イエスを自分の家に迎え入れました。ザアカイは自分が主イエスに愛されているのだということに、今まで経験したことのない喜びを覚えました。彼は主イエスに誓います、「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します」(8節)。その内容は律法が命じる償いの規定をはるかに超えるものでした。全く自由で、自発的な感謝の表明でした。家の中でどんな話し合いがあったか分かりませんが、主イエスがザアカイにこんこんとお説教をされたわけではないと思います。自分を捜し求めて来てくださった方がいる、自分は本当に愛され生かされている、そのことを知るとき、人は自分さえよければよいという生き方はできなくなるのです。隣人の存在に心開かずにおれなくなるのです。そしてまた自分の富と財産に固執することからも解放されていくのです。あの金持ちの議員もできなかったことをザアカイはできたのです。ザアカイがしたというよりも、主イエスがそうさせてくださったのです。

「人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである」(10節)。これはイエス・キリストの地上の生涯全体の目的を簡潔に言い表した宣言です。ザアカイの物語はまさにこの宣言を証する出来事だったのです。そして、この目的を完全に果たすために、主イエスはエルサレムに入り、苦難と十字架を引き受けていかれるのです。